農業技術トピック
ときめき
no.. 361
2010 6-11
島根県農業技術センター

イネ縞葉枯病に対する警戒を開始しました

【要約】イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカの早期発見を目的に、予察灯およびネットトラップをそれぞれ県内２ヶ所に新たに設置しました。

平成２０年に県東部を中心に二十数年ぶりのイネ縞葉枯病が発生し、大きな被害となりました。本病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病です。早い時期にイネが感染すると枯死や穂数の減少など収量に大きな影響を与えます。また、媒介虫の防除以外に有効な防除方法がありません。

ヒメトビウンカはムギやイネ科雑草で越冬するほか中国大陸からの飛来も確認されており、平成２０年の被害は飛来虫によるものと考えられます。そこで、本虫をいち早く発見するために既存の出雲市に加えて益田市と隠岐の島町に予察灯を、大田市と出雲市にはネットトラップを設置しました。現在のところ、セジロウンカの飛来は確認されたもののヒメトビウンカは捕獲されていません。今後、これらのトラップによる発生調査と圃場での調査を継続し、イネ縞葉枯病をはじめ水稲病害虫防除に関する情報を提供していきます。

イネ縞葉枯病（写真１）

ヒメトビウンカ（写真２）

ネットトラップ（写真３）

予察灯（写真４）

（上部の電球で害虫を誘引し捕獲する）

問い合せ先：資源環境研究部病虫グループ（担当:山本淳、澤村信生）　０８５３－２２－６７７２
E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp